

防災 からの視点

災害時のマニュアルを作成し  
地域住民とともに災害に備える

安芸高田市危機管理課 課長  
神田 正広さん



目指しているのは、災害時に外国人を支援するためのマニュアルの作成です。いざという時に、外国人に対してどのように接すればよいか、どのような支援を必要としているかが分かれば、市の職員も地域住民もサポートがしやすくなります。また、現在1名の外国人が消防団員として活躍しています。今後は活動する外国人の増加にも期待しています。

企業 からの視点

故郷を離れて暮らす実習生が  
地域の人や文化にふれる機会を

スターライト工業株式会社  
坂本 信一朗さん



弊社では約10年で22名の技能実習生を採用しています。私たちにとって外国人はとても身近な存在。長年、彼女たちと向き合う中で、最も大切なのはコミュニケーションだと感じています。工業会主催のスポーツ交流会に実習生を参加させるなど、遊びも含めて地域の方や日本の文化と触れ合える機会を設け、暮らしやすい環境づくりの一役を担ってまいります。

# 各業界の代表が プラン策定に込めた思い

プランの策定に携わった多文化共生推進会議委員は、学識経験者、医療関係者、経済商工業関係者など、様々な視点を持つ16名で構成されました。各業界を代表するメンバーの声をお届けします。

会長 からのひと言

全国初の多文化共生プランで  
地方創生のフロントランナーに

明治大学国際日本学部 教授  
山脇 啓造さん



今回のプランの基本目標は、「安心・安全に暮らし活躍できる地域づくり」と「移住・定住したくなる魅力的な地域づくり」です。すなわち、国籍や民族を問わず移住・定住を促進することを目標に掲げた、全国初の多文化共生プランとなっています。今年6月、政府が初めて「地方における外国人材の活用」を打ち出しました。政府は、地方創生の取り組みと多文化共生の取り組みをリンクさせ、相乗効果を上げることを目指しており、安芸高田市のプランが示した方向性に合致するものといえます。安芸高田市が多文化共生、そして地方創生のフロントランナーとして、新時代を開くことを期待しています。

観光 からの視点

プラン策定で目指すのは  
外国人がいることが自然なまち

安芸高田市観光協会 前事務局長  
榎 幸男さん



神楽や甲冑の試着などが人気を呼び、外国人観光客の数は年々増加。民泊や体験型など、観光の種類も多様化していることから、今後さらに増えていくでしょう。このように生活環境が少しずつ変化の中で、プランの策定により外国人の存在がより身近で自然な存在となることがベスト。このプランが市民のみなさんの心の片隅にあれば、きっと実現できるはずです。

商工会 からの視点

外国人労働者と地元企業を繋ぐ  
架け橋となる存在を目指す

安芸高田市商工会 事務局長  
竹本 隆文さん



地元の小規模事業者から人手不足という声が届いています。外国人の労働力を活かすために、まずはどこまで足りていないのかを把握することから始めたいと思っています。また、現在は働きたいという外国人が相談できる窓口がありません。市や国際交流協会と連携して、外国人と企業をマッチングできる仕組みづくりも進めていきたいと考えています。

教育 からの視点

子どもの言葉の問題の解決に向け  
教育に携わる各部署が連携

安芸高田市教育委員会 教育次長  
土井 実貴勇さん



外国人の子どもは、日本語を学ぶ家庭教育環境が十分でないため、日本語の習得に不安があります。この日本語力の不安は総合的な学力に影響があることから、学校における日本語指導に加え、放課後等を活用した日本語教室や母国語教室など、これから私たちができる支援を、市の関係部署や国際交流協会などの各機関と連携し、実践していく予定です。

医療 からの視点

誰でも安心して暮らせる  
医療体制の構築を目指して

安芸高田市医師会 事務局長  
近村 美由紀さん



専門的な言葉が多く、命にかかわる医療の分野は、外国人の方が最も不安を感じる場所だと思います。正直、これまで外国人の方々の暮らしについて、あまり知る機会がありませんでした。今回委員に選出され、会議に参加していく中で、今後は外国人の方も安心して生活できる医療体制の構築が不可欠だと感じています。まずは現場の意識づけからスタートします。